第六講 ・ 文学的文章④

一 題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

夏休み。①ゴイサギ森から、子どもたちの声がきこえた。

「そら、正広。②えだをなわでしばるんだ。」

正広は、木の上の健のさしずにしたがう。

えだのあいだからたらされたなわに、板がむすびつけられ、木の上に引きあげられる。木の下には正広とし子、上にはほかの三人。

えだとえだのあいだに板がしきつめられ、三人ぐらいならすわることのできる、ゴイサギの巣が二つ、つくられているのだった。

この板を＊提供したのは正広だ。夏子先生がお宮の森のゴイサギたちを見て、正広のことを相談してくれていると思って、むねがきゅっとなったとき、この連中が相談していたのは、じつはこの巣をつくる板をどこから手に入れるかということだった。

「そうだ。正広くんと遊んでやって、そのかわり、板をもらえばいいわ。」

「うん、それはいい考えだ。」

③こういうことから、正広と遊ぶということがはじまったのだが、大げさに夏子先生に報告して、「友情に感謝する」などといわれたので、巣をつくったら、④正広をおはらいばこにするというわけにはいかない。

「まあ、いいや。あいつ、ぐずだけど、毎日、おかし持ってきてくれるもんな。」

巣の上にねそべった健は、えだにつるした箱から、おかしを取って食べる。健は水泳パンツ一まいのはだかだ。えだの上から川にとびこめるのが、この巣のよいところだ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「⑤正広くん、もっとこっちにきてみろよ。」

川のなかで、ひろしと京平が水をはねあげながらいう。岸に近い浅いところに正広はうきわをつけてはいっているが、深いほうへはいこうとしない。

とつぜん、水のなかからとし子が正広のそばにうかびあがって、うきわをぐいぐい引っぱった。

「あ、あ、あ。」

正広は□、むちゅうで水をかく。ひろしと京平が近よって、一人は正広の頭をおさえつけ、一人はもぐって足を引っぱる。うきわはとし子に取られ、正広はうかびあがったり、しずんだりする。

毎日、こんなことをしているうちに、ゴイサギたちもしだいに正広が好きになってきた。

「⑥これをやるよ。忍者の目つぶしだよ。きみをいじめるやつがいたら、ぼくたちがおっぱらってやるけども、一人のときには、これをぶっつけてやったらいいよ。」

健は、タマゴのからのなかに、灰やトウガラシをつめこんだ目つぶしを、正広にやったりした。

（古田足日『夏子先生とゴイサギ・ボーイズ』）

＊提供＝利用してもらうために、お金や物・技術などをさし出してあたえること。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　――線①「ゴイサギ森から、子どもたちの声がきこえた」とありますが、ゴイサギ森に子どもたちは何人いるのですか。漢数字で答えなさい。

［　］人

問二　――線②「えだをなわでしばるんだ」とありますが、いったい何をつくろうとしているのですか。次の［　］にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

三人ぐらいなら［　　　］ことができる、えだとえだのあいだに［　］をしきつめた、［　　　　　　］というもの

問三　――線③「こういうことから、正広と遊ぶということがはじまった」とありますが、どんなことから正広と遊ぶことになったのですか。もっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　遊んでやるかわりに毎日おかしをもらおうと考えたこと

イ　夏子先生から遊んでやるようにたのまれたこと

ウ　遊んでやるかわりに巣をつくる板をもらおうと考えたこと

エ　巣をつくる手伝いをしたいという正広の申し出を受けたこと

［　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　――線④「正広をおはらいばこにする」とは、どうすることですか。もっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　正広にはもう巣をつくらせないようにすること

イ　正広からはもう板をもらわないようにすること

ウ　正広をもう仲間（なかま）はずれにはしないようにすること

エ　正広とはもう遊ばないようにすること

問五　――線⑤「正広くん、もっとこっちにきてみろよ」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1)　このとき正広はどんな様子でしたか。次の□にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

川の、岸に近い□□□□□に□□□をつけてはいっていた。

(2)　「こっち」とはどんなところですか。文中から四字で書きぬきなさい。

問六　□にあてはまることばとしてもっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　笑（わら）いそうになって

イ　泣（な）きそうになって

ウ　おこりそうになって

エ　得意そうになって

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　――線⑥「これをやるよ……ぶっつけてやったらいいよ」とありますが、ここからわかる正広に対する健の気持ちを説明したものとしてもっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　正広のいくじのなさにあきれ、かわいそうに思っている。

イ　正広を自分たちの仲間だとみとめている。

ウ　正広をからかってこまらせようとたくらんでいる。

エ　正広をもっと強くしてやろうとはりきっている。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　**次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

〈今日は、クラス対抗(たいこう)の水泳大会の日。あと一種目、五十メートル男子自由形で優勝(ゆうしょう)クラスがきまる。〉

「だれか、出てくれないか。出さえすれば、びりでも、一点はもらえるんだ。六年二組が十点とっても、同点優勝だぞ。」

学級委員や、ゴイサギ・ボーイズは、まだ泳いでいない連中に話してまわった。

だが、五十メートル泳ぎきる自信のあるものは、だれもいない。

場内アナウンスはよぶ。

「五年三組の選手はまだですか。」

プールのとびこみ台には、九人の選手がずらりとならんだ。五年三組の第八コースだけが、ぽっかりあいている。

ドーン

スタートのピストルが鳴って、九人の選手は、いっせいに水中にとびこんだ。

「ざんねん、優勝をのがしたな。」

ゴイサギたちが顔を見あわせたとき、第八コースのとびこみ台に立った子がいた。

「①あっ、太郎左衛門(たろうざえもん)だ。」

みんなはおもわずさけんだ。正広(まさひろ)はプールのなかに、ドボンと落ちこんだ。自分では、とびこんだつもりだ。②ほかの組の子どもたちは、どっとわらった。

「つぶれたカエルみたいだぞう。」

「カエルなら、泳げるけど、太郎左衛門はかなづちだ。」

そのとおり、ちょっと泳いだ正広は、ぶくぶくとしずんだ。

「あ、あ、あ。」

③夏子(なつこ)先生は、気が気でない。

「がんばれ、太郎左衛門。プールは浅(あさ)いぞ。背(せ)が立つぞ！」

ゴイサギ・ボーイズは、声をそろえてどなった。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

正広はプールのなかで立ちあがり、ひといきつくと、また泳ぎだした。

「それでも選手かあ。うきわ、かしてやろうか。」

やじがとんで、ほかの組の子はまたわらう。だが、五年三組の子は、だれもわらわなかった。

④「がんばれ！　太郎左衛門。がんばれ！　太郎左衛門！」

四、五メートル泳いでは、ひとやすみ。またひとやすみ。正広はイヌかきで泳いだ。

ほかの選手は、もう二十五メートルのプールを往(おう)復(ふく)して、岸にあがった。

正広は、やっと、こちら岸についた。

「あがったら。ね、正広くん。」

夏子先生は正広を引っぱりあげようとした。

だが、正広は、くるしそうに大きないきをつぎながら、ターンした。

広いプールを、たった一人。正広は、いきをきらし、しずみそうになりながら、やすみ、やすみ、泳いでいく。

⑤「がんばれ！　太郎左衛門。がんばれ！　太郎左衛門！」

もう、だれ一人、正広をわらう子はいなかった。

校長先生も、ほかの先生も、総立(そうだ)ちになり、全校生徒(せいと)が正広をおうえんした。

「がんばれ！　正広くん。がんばれ！　正広くーん。」

さけぶ夏子先生の目のなかで、泳ぐ正広のすがたがぼやけていく。⑥なみだが、あとから、あとから、わいてくるのだった。

（古田足日(ふるたたるひ)『夏子先生とゴイサギ・ボーイズ』）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　――線①「あっ、太郎左衛門だ」とありますが、太郎左衛門（正広）は、なぜ五十メートル男子自由形に出ることにしたのだと考えられますか。次の□にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

自分が出れば□□でも一点もらえるので、六年二組が十点とっても、五年三組は□□□□になるから。

問二　――線②「ほかの組の子どもたちは、どっとわらった」とありますが、正広のどんな様子を見てわらったのですか。次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

プールのなかに□□□□□□□□□様子

問三　――線③「夏子先生は、気が気でない」とありますが、このときの夏子先生の気持ちを説明したものとしてもっともよいものを次のうちから選(えら)び、記号で答えなさい。

ア　正広がもっとわらわれるのではないかと心配している。

イ　正広がと中で泳ぎをやめるのではないかと心配している。

ウ　正広がおぼれるのではないかと心配している。

エ　正広がびりになるのではないかと心配している。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　――線④、⑤の「がんばれ！　太郎左衛門」は、それぞれだれがおうえんしている声ですか。文中からそれぞれ書きぬきなさい。

④

⑤

問五　だれ一人、正広をわらう子はいなくなり、みんなが正広をおうえんするようになったのはなぜですか。もっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　びりでも最後まであきらめず、前の人に追いつこうと必死に泳ぐ正広のすがたに感動したから。

イ　つかれてしずみそうになりながらも、少しもやすむことなく最後まで泳ぎ続け（つづ）る正広のすがたに感動したから。

ウ　かなづちだった正広が、五十メートルをみごとに泳ぐすがたに感動したから。

エ　うまく泳げなくても、ひどくつらくても、最後まで泳ぎぬこうとする正広のすがたに感動したから。

問六　――線⑥「なみだが、あとから、あとから、わいてくる」とありますが、このときの夏子先生のなみだは、どんな気持ちから出たものですか。もっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　悲しみ　　**イ**　安心

ウ　心配　　**エ**　喜び

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　文学的文章④

一題目

問一　五(人)
問二　すわる・板・ゴイサギの巣
問三　ウ
問四　エ
問五　(1)　浅いところ・うきわ
　　　(2)　深いほう
問六　イ
問七　イ

二題目

問一　びり・同点優勝
問二　ドボンと落ちこんだ
問三　ウ
問四　④　五年三組(の子)
　　　⑤　全校生徒
問五　エ
問六　エ